

日向神（愛のエリア）クライミング

【報告者】坂本

【日時】平成19年8月19日(日)

【天候】晴れ

【参加者】中村, 中井, 金崎, 福田, 上野, 野村, 坂本

《 報 告 》

ピナクルに入会して2か月、東京出張の時を除き毎週ラリナガで重ねてきたトレーニングの成果を遺憾なく発揮し…と意気込んで臨んだ初の生岩。目指すは日向神、その名も“愛のエリア〜”。「ん〜、なんて甘いエリア名。ラブリエ♥」などと考えながら、ルンルン気分では一路、黒木方面へ。後に、甘いのはエリア名だけということに気づくのだが…

私の車には、福田さんと上野さんが同乗、途中、生岩デビューの思い出などを聞かせてもらう。「坂本さん、生岩デビューだよ。野岳だったら良かったのにねえ〜。愛のエリアは、初生岩には難しいよお〜。自分の時は、1本も登れなかった。」と、二人からプレッシャーをかけられるものの、「確かルートは5.9からありますよね。それにトップロープだし…」と応酬。手も足も自由だし、減量にも成功したし、ラリナガでの感じからいってトップロープでの5.9は軽いと思っていました。

ダムのそばに車を置いて、急坂を10分ほど登ると、愛のエリアに到着。「えっ、ここが愛のエリア？ていうか、ネーミングおかしくねえ?」。そう、そこは狭い両側を岩で囲まれた傾斜地の雑木林で、名前から勝手にイメージしていた「恋人たちの散歩道」とはほど遠い場所でした。

まずは、中井さんがスルスルと登り、トップロープを準備（中井さん、接待クライミング、すみません）。いよいよ生岩初挑戦、目指すは「夢中歩行」、グレードは愛のエリアで最低の5.9。

内心「ふふっ。ウォーミング・アップだな。」と思いながら、前半部を華麗（なつもり）に登る。「ふむふむ。確かに、5.9程度だな。」なんてことも考えながら、余裕をもって9割がた登り終える。あとちょっと。岩肌を横に走る大きなクラックにし

っかりと左足のスタンスを取り、右足は人工ホールドのようなおいしい突起にのせる。「よし。これで、右足に乗り込めば？…乗り込めば？…の・り・こ・め・ば…乗り込めな〜い！！」。むなしく敗退。

中村さんには、「初めてであそこまでいければ立派。立派。」と慰められ、中井さんには、「じゃ、別のルートにトライしてみようか。」と励まされるも、5.9を登れなかった私に、5.10aや5.10bが登れるはずもなく、敗退が続く。「このままでは、1本も登れないまま終わるじゃないか。」

3月以来2回目の生岩のはずの野村さんとはといえば、「あれっ？ あれっ？」とか言いながらも、ホールドや的確なムーブを見つけては、いつの間にやら終了点まで到達し、何事もなかったかのような涼しげな顔をしている。しかし、私は見逃さない、彼の口元に終了点を知るものだけが持つ「余裕のスマイル」が、かすかに浮かんでいたことを…

よし、私も終了点がどうなっているか見てみたい。そして、あのスマイルを浮かべてみたい。気合を入れ、本日最後のトライ。もちろんルートは、「夢中歩行」。いよいよ課題の箇所まで来た。登る前にイメージしたムーブで…??…しかし、またもや同じような状態で固まる。隣のルートを登り終えた中村さんが、降りる途中で、「右手をもう少し上。左手はそのクラックに入れて。」とアドバイスしてくれる。下からも、「ガンバ!!」と声がかかる。“愛のエリア”の『愛』って、こういう先輩・後輩の愛のことなんだ。先輩方の愛の力に後押しされ、渾身の力を込めて…っ…しかし敗退。

結局、初生岩の成績は0勝5敗。甘いのは、エリア名だけで、生岩の洗礼をたっぷり受けたほろ苦い岩デビューでした。



コーヒー・ブレイク

結局 1本も完登できませんでしたが、今回は、クライミングの「完登」について調べてみました。

クライミングでは、「完登」が細かく分かれています（私にとっては意外でした）。

オン・サイト 直訳すると「見てすぐ」という意味で、初見で完登すること。他人が登っているのを観察するのもダメ。フリークライミングではもっとも価値あるスタイルとされている。

フラッシング 1回目のトライでの完登を意味するが、オン・サイトとは違い他人のムーブを観察したり、情報収集してもよい。

レッド・ポイント 2回目以降のトライで完登すること。